役場庁舎の集約化に向け検討を行っています

新築？
改修？
所在地は？

平成21年10月５日合併
本庁・総合支所方式

平成28年より「分庁舎方式」

刈田町長(右)より諮問書が提出され、受け取る岩佐委員長(左)

検討に至った経緯

本町は、平成21年10月５日に旧上湧別町と旧湧別町が合併して新たな町として誕生しました。

合併時の庁舎は「本庁・総合支所方式」でしたが、平成28年より「分庁舎方式」に変更し、合併10年を目途に「本庁・支所方式」とすることとして今日に至っています。

令和３年11月に刈田町長が就任し、町民の利便性の向上、行政の効率化および防災対策の充実を図るため、また、庁舎集約化に欠かせない財源(地方債)である合併推進債の借入期限が迫っていることから、町民による検討委員会を本年設置し、懸案であった庁舎集約化の検討を進めることとなりました。

庁舎等検討委員会の開催状況

◆第１回（委員委嘱・諮問）

各委員への委嘱状交付後、町長から、本町の懸案である庁舎等集約化による庁舎等再配置および庁舎等整備について審議いただくため、諮問を行いました。

町からは、庁舎集約に係るこれまでの経緯、現在の庁舎等の状況および庁舎集約化の必要性を説明しました。

各委員からは、現時点での庁舎に対する思い等を述べていただきました。

◆第２回（集約化の検討）

集約先の候補となる施設（上湧別庁舎・湧別庁舎・文化センター・TOM・中湧別小学校・新築庁舎）の利便性・安全性・経済性・機能性についてメリット・デメリットを説明しました。

委員からの主な意見・質疑

●庁舎は、防災拠点の役割が重要と発言したが、自然災害だけでなく、大規模な事故も含めた災害と考えている。その際は、相応の敷地が必要になるものと考える。

●湧別庁舎を改修した場合、今後も使用は可能なのか。

町　耐震改修が必要であり、改修は可能であると考えている。ただし、耐用年数が延長されることはない。

●新築は既存施設より機能性が向上し維持費の削減が見込まれるが、当然初期費用が相当かかる。新庁舎建設費用と既存庁舎改修費用の差額分を、維持費の差額分で考えると相当の期間が必要になり、方向性を決める検討材料としてはとても重要と考える。

●集約した場合、現在庁舎のある地域の住民手続き等の対応はどうなるのか。

町　庁舎がなくなった地域については、出張所などを設置する必要があると考える。

◆第３回（集約化の検討）

町からは、総務省等の基準を基に庁舎集約に必要となる規模を説明しました。

- 庁舎（約４５００㎡）
- 保健福祉センター（約７００㎡）

委員からの主な意見・質疑

- 庁舎等の規模の算定時に現在の職員数を基に算出しているが、人口減少とともに職員も減少しているため、それらも加味した方が良いのではないか。

町方向性が定まった際には、職員数などを精査し適正な規模を算定する。

- 職員数が減少した際に余剰となった施設を別の用途で活用することができ、グラウンドや周辺に有事に活用できる土地を確保できることから中湧別小学校の改築等の案が良いと考える。また、庁舎集約にあたってはコンパクトで、職員が仕事をスムーズにできるような造りであって欲しい。
- 文化センターＴＯＭは、改修費用が新築より高く、新築の方が庁舎の内部や場所を決めることができるため、候補から外しても良いと考える。
- 新築は優位であるが、新築と改修に10億円程の差があり、合併推進債を活用しても7億円程の町の負担が発生する。この費用分を他の事に活用できるのではないかと考える町民が一定数出てくると考える。なぜ改修ではなく新築かという議論を尽くす必要があると考える。
- 新築が良いと考えている。案で示されている庁舎等は築年数がたっており、建て替えが必要となった時には人口減少が進み、町の財政はどうなっているか分からない。今であれば合併推進債を活用することができ条件的に有利である。

上湧別庁舎改修案の検討

- 駐車場は足りるのか。

町来客用の駐車場は足りるが、職員および公用車の駐車場は不足が見込まれるため、近隣の町有地を活用することとなる。

- 来客用駐車場の入口と一台あたりの駐車スペースが狭く改善が必要。このため、現状の駐車可能台数は50台程度だが、駐車スペースを広くすると40台程度になるのではないか。
- 町民の利便性が重要である。合併して、湧別地区、中湧別地区、上湧別地区を考えると、庁舎が上湧別地区にあるというのが今後の集約に向けてどうなのかなと思っている。
- これまでの意見を聞くと上湧別庁舎の改修案は外しても良いのではないか。
- 上湧別庁舎はあくまで改修案の中では有力案である。問題点はあくまで現状であり、上湧別庁舎を活用する際は改修することとなる。新築であっても使い始めたら問題点は出てくるため、新築だから良いとなる訳ではない。

第３回を終了しての委員会決定事項

【庁舎の方式】

行政の効率化を図るため「**本庁・支所方式**」とする

【集約候補施設】

安全性を基に検討、協議の結果、**湧別庁舎は、津波災害リスクと耐震基準の問題があることから候補施設から除外**する。

◆第４回（集約化の検討）

町からは、集約化の候補施設の改修費等の概算費用を提示し説明しました。

- 上湧別庁舎（27億４９００万円）
- 文化センターTOM(39億７４００万円)
- 中湧別小学校（31億７８００万円）
- 新築庁舎（38億１０００万円）

委員からの主な意見・質疑

- 上湧別庁舎の改修・増築案について、現状の敷地面積で増築の部分は足りるのか。

町庁舎の表（西側）にある庭、もしくは裏（東側）にある職員駐車場の活用を検討することとなる。

第４回を終了しての委員会決定事項

【集約候補施設】

文化センターＴＯＭの改修案は、検討・協議の結果、**改修費用等を考慮し候補施設から除外**する。

◆第5回（集約化の検討）

中湧別小学校改修案の検討

●中湧別小学校は改修費用も高く、元々が学校なので役場には向いていないのではないか。

●庁舎新築が38億1000万円の改修費用が示されたが、最新のものを造ろうとすれば、この位の予算になっても中湧別小学校が良いと思っている。中湧別小学校は湧別町のほぼ中心的な位置にあるし、用地が十分確保されていることが最大のメリットである。

●人の行き来を考えると郵便局、病院などがある中湧別地区が便利。その中でも、土地が広く駐車場も十分確保できる中湧別小学校のところに新築で建てた方が良いと思う。

●中湧別小学校が良いと思っている。ほぼ新築で、足りない部分を校舎で補うのが望ましいと思っている。

新築か既存施設改修かの検討

●デメリットが一番少ないのは新築だと思っている。一番問題なのは費用だと思うが、示された面積は今の職員数を基準に算出されたものであって、この先精査して行けば、金額は圧縮できると思うし、いろいろ求められる機能などのことを考えれば、あっち、こっちを直すというよりは、新築する段階で構築していく方が、理想的な庁舎ができていくのかなと考えており、財政支出を抑えた中での新築が一番良いと思っている。

●TOM近辺にある町有地に新築するのが一番良いと思っている。TOM近辺に建てるのが良いと思うのは、道の駅があって、TOMがあって、すでに町民の憩いの空間が出来上がっている中に都合良く敷地があるならそこに建てて、役場という目に見えない境界線を感じさせないような空間をあの一帯に作り出すというのは面白いのではないか。

●必ずしも新築か改修か絞らなくても、新築が1つ、改築の有力な案が1つ位にまとめるやり方もあると思う。

●1つに絞らなくても良いという意見もあるが、町長から諮問書を出されたわけだから、答えはある程度絞ってくれということだと思うので、1案2案3案とかになるのであれば意味がないと思う。

●中湧別小学校校舎を活用できるなら、会議室として使ったらどうだろうという話をしたが、例えば地域のコミュニティの場所として使うこともー1つの案と思っている。しかし、中湧別小学校の経過年数を考えると、改修をメインにするよりは新築をメインにする方が良いと思っている。

●中湧別小学校の場所に新築、または、中湧別小学校を併用して使っていくやり方の2つがあって良いと思う。

※第1回（6月13日）から第5回（10月26日）に開催された検討委員会の内容を抜粋して掲載しました。今後も検討を進め、町長に答申する予定となっています。会議の詳細（会議録等）は、町ホームページに掲載または役場庁舎（上湧別・湧別）、図書館（中湧別・湧別）にて閲覧できます。

町ホームページ

【検討委員会のメンバー】

委員長　岩佐　雅弘さん
副委員長　髙橋　直司さん
委員　長谷川　雄基さん
樋口　聖哉さん
野津　玲子さん
毛利　美紀子さん
竹部　行義さん
吉村　諄郎さん
橋本　三樹彦さん
槇　典明さん